

社会を診て、疾病を癒す

Q1. 何をやるどころ？

A1. 社会医学は、「社会を診て、疾病を癒す」ための学問で、患者個人というよりも、健康な人も含めた全ての人々が健康な生活ができるように、社会全体の仕組みを学び、研究する学問です。基本的には疫学（えきがく；Epidemiology）という医学研究の手法を用いて研究をします。

Q2. 疫学とはなんですか？

A2. 疫学とは、病気の原因や進行に関わる要因を明らかにするために、人を対象として、その頻度と分布を観察して、それらを分析する学問であり、さらに、明らかになった要因に介入することによって、病気を予防できるかを明らかにすることも行います。昨今、ビッグデータという言葉をよく耳にしますが、まさに、それを扱う学問です。

Q3. 具体的にはどのような研究をしていますか？

A3. 甲州プロジェクトを33年間以上続けています。これは母子保健に関する長期縦断研究（出生コホート研究）です。最近では、妊娠中の喫煙が、低出生体重児の危険因子であるだけでなく、大きくなって、肥満の危険因子となり、それは、思春期にまで影響を及ぼすことを世界ではじめて明らかにしました。

エコチル調査は2011年にリクルートを開始した10万人の妊婦さんに協力してもらった出生コホート研究の一大国家プロジェクトですが、当講座も甲信ユニットセンターとしてこのプロジェクトに参加しています。2022年現在、生まれてきた子どもが小学校2年生から5年生になっています。すでに、250編以上の論文が出版され、その成果を疾病予防や健康増進に実装しています。

研究を通じて、胎児期や新生児期の環境が将来の健康に影響をするという DOHaD (Developmental Origins of Health and Disease) の概念を明らかにします。

Q4. その他にどのようなものがありますか？

A4. ゲノム科学、脳科学、生成医療（iPS細胞研究）など先端医学と社会との接点に関する研究をしています。国民がこれらの先端技術を活用する際の課題を先取りして、円滑に社会に応用できるようにするにはどうすればよいかを提言する科学的根拠を創出しています。

また、社会の格差がどのように健康に影響を及ぼすかといった社会疫学研究も行っています。

Q5. どんな知識や技術が身につきますか？

A5. 人の病気や健康状態の原因を明らかにするためにはどのような研究デザインをすれば、科学的で倫理的であり、さらに、実行可能な研究ができるかを導き出す知識と技術が身につきます。それを実施するための研究ガバナンスも学びます。もちろん、生物統計解析も必須の技術です。

Q6. もっと知りたいときは？

A6. 社会医学講座のホームページを見るか、講座を訪れてください。